

ふれあい新聞

(第24号) 平成4年10月1日(田中野田町内会)

夏祭りご協力ありがとう

町内会長 和氣 加太志

今年の夏祭りも台風一過さわやかな天気にも恵まれ、大勢の皆さんをお迎えして盛會裡に終了することができました。田中野田の夏祭りは今年で9回を数えたわけですが、年と共に充実、発展してきておりますことは誠に頼もしい限りであり、皆さんと共に喜びたいと思います。

これはひとえに、夏祭りをこよなく愛し育ててまいりました子供会OBの皆さんをはじめ、町内の各種団体の方々の献身的な努力によるものと深く感謝いたしております。また、この夏祭りを盛り上げ、花を添えてくださいましたご参加の皆さん方のご協力のたまものであり、心より厚くお礼を申し上げます。

町内会といたしましても、年に一度の豊かなふれ合いのあるこのような楽しい催しは、これからも大切にしていきたいと思います。予算面、運営面等夏祭りに対する課題も数多いことも事実ではありますが、町内の皆さん方の観知と協力により一つ一つ障害を乗り越えて頂きたいと思っております。

老いも若きも男も女も心一つにして、共に努力し合い、共に楽しみ合う中でこそ、おのずから望ましい心と心のふれ合いが生まれ、温かい人間関係が育つものと考えます。

このことは、心に残るようなすばらしい祭りを創造していくことになるばかりでなく、田中野田町内が名実ともに、竹の町内に優るとも劣らない町内に脱皮していくための力強い原動力になることと思っております。どうか今後ともご支援のほどよろしく願いたします。



夏祭り売店ご利用ありがとうございました。

田中野田婦人会、田中野田子供会育成会
田中野田子供会OB会

夏祭りに寄せて

辰巳 小野田 久子

銭太鼓のグループがこんなに交流の場を拡げて行くとは思いませんでした。

ただ、各自の老化防止を第一の目的として発足して二十年！今では藤本先生を軸として東西南北に稽古の場はふえ、ボランティア活動も忙しくなりました。田中野田の夏祭りもこうした同志の進取的な気持ちで応援にかけつけました。

台風10号で日曜になった夏祭りは三〜四カ所重なり、私達は上中野をすませ田中野田に参りましたが、時すでに遅く銭太鼓は見る事は出来ず、ステージでは藤本先生が胸に花束を抱き、観客の拍手を浴びておられました。

盆踊りのあと、各自の手に持つフィナーレの花火は、夏祭りを惜しむ如くに煙を残して消えました。

こうして地区の方が盛り上げられた夏祭りの裏には協力、勇気、努力があったと教えられました。また、老若男女を問わず、打ち解けて楽しく交流されていて、他からの応援も優しく受け入れて下さった土地柄が嬉しく偲ばれました。

まつり太鼓

田中野田子供会育成会 大森 仁一

8月9日、田中野田グランドにおいて、第9回田中野田夏祭りが盛大に開催され、無事終了いたしました。

今回、私はまつり太鼓の指導という大役を仰せつかり、町内行事のあり方と子供の育成者としての立場上、お引き受けいたしました。しかし内心では、メンバー構成上、3分の2の子供が今回初めてという現実には、はたして今まで通りうまく出来るだろうかという事を考えたら、背筋の寒くなる思いがして不安でした。

でも、一弘も今年子供会最後の年、一つでも子供の為に、良い思い出を作りたいという気持ちの方が強く、また、先輩諸氏の太鼓について多数の良き助言と、資料入手に御協力をいただき、なんとかなるだろうと割り切って考えることにしました。帰宅後、早々に練習時間、編成、編曲、ラインナップ、配置等大体のアウトラインを決め、親の同意書の回収と練習日の設定にはいりました。

しかし、現実には、そんなに考える程甘くはなかったのです。

練習を開始したのはよいが、はじめて梓(ばち)を持つ子、かっが解らず、おろおろのしどうしで、たたけても、たがいちがいの打ち方が出来ず、ぶり顔になる子、力まかせに棒をたたき壊す子、

練習に参加するといつて、何の連絡もなしに休む子等で練習時間を浪費する一方でした。

かといつて、練習時間の延長も出来ず(使用場所の関係と相手は子供だけに健康上のこともあり)不安だらけの毎日でした。かといつて一度引き受けた以上、なんとかしなくてはと思い、スケジュールの再々の変更を繰り返して、一応私なりの手応えを感じた時(多少の妥協心もありましたが)は、もうすでに、祭りまで残すところ一週間でした。

編成(竹の使用)と編曲の再考を繰り返して、太鼓の最初から最後のきめまでのつめが通して出来るようになったのが3日前でした。

というのも、盆踊りの練習後女の子の銭太鼓の練習を見てびっくり、翌日、「女の子に負けるぞ」といって活をいれ、再奮起したからです。

一生懸命努力したかいがあって、練習最後の日に、なんとか通してさまに収めることが出来、本当に子供たちも良く頑張ったと思いました。

しかし、私も子供たちもその場(スポットライトを浴び、多数の観客の前)になったらどんなことが起こるか想像もつかず、一まつりの不安は心の奥にありました。

でもなんとか無事に終わることが出来(練習通り)、舞台から降りる時、「良かったぞー」という一言で胸のつまる思いがし、良い一つの思い出が子供たちから私に、私から子供たちにプレゼントされたのではないかと思います。

これからも、このような機会は決してつぶすべきではなく、このような機会を利用して、より多くの子供たちが巣立っていく事を望んでいます。

夏祭りのこと

6年 東野 徹男

8月9日に夏祭りがありました。

ほくは、いろんな物を買ったり、食べたりしました。そして、祭りだこの準備をする時間になったので着がえましたが、さらしがとても苦しかったです。

そして、すこしまって、祭りだこをする時間になりました。ものすごく、きんちょうしました。

まちがえないようにと思ってやりました。

始めの方は、うまくできました。しかし最後の方で、みんなと、すこしリズムがはずれたけれど、なんとかもとのリズムにもどって終わりました。